

慶成高等学校

令和3年度一般入学試験問題

国語

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから10ページまであります。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 句読点は全て字数として数えてください。
- 6 試験時間は50分間です。
- 7 試験終了の合図で筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにして、机の上に置いてください。
- 8 解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

【新聞記事の一部】

スパコンの利用分野は広がっている

スパコンの主な用途		計算速度が世界一になった国産スパコン	
		年月	スパコン名 (産学機関)
医療	創薬につながるたんぱく質の探索 遺伝子を分析してゲノム医療に活用	1993年 11月	数値龍洞 (航空宇宙技術 研究所・理研)
情報	人工知能(AI)のデータ学習	96年 6月	SR2201 (東京大)
化学	新素材開発	11月	CP-PACS (筑波大)
防災	地震や津波など大規模災害の被害予測 気象や気候変動の予測	2002年 6月	地球シミュレータ (海洋研究 開発機構)
天文学	惑星形成のシミュレーション	11年 6月	京 (理化学研究所)
		20年 6月	富岳 (理研)

1秒間の計算回数

計算速度が世界一になった国産スパコン

スパコン名 (産学機関)

1秒間の計算回数

1993年 11月 数値龍洞 (航空宇宙技術研究所・理研) 1240 億回

96年 6月 SR2201 (東京大) 2204 億回


11月 CP-PACS (筑波大) 3682 億回

2002年 6月 地球シミュレータ (海洋研究開発機構) 35兆 8600 億回

11年 6月 京 (理化学研究所) 8162 兆回

20年 6月 富岳 (理研) 41兆 5000 兆回

計算速度が世界一になったスパコン(富岳)



(日本経済新聞による。一部改変)



太郎

すごいことだね。先代スパコン「京」の約 **ア** の計算回数だ。

スパコンの開発はアメリカや中国でも行われ、各国が**②**競争している状態だ。その中で「富岳」はただ計算**③**速度が速いだけでなく、他の機器やソフトとの互換性を重視するなど、**イ**しているため、様々な分野での活躍が期待されているよ。



祖父



太郎

医療や防災など色々な分野で活躍しようだね。

- 問一 — 線部**①**の「競う」の漢字の読みを、平仮名で書け。
- 問二 **ア** に入る最も適当なものを、次の1〜4のうちから一つ選び、その番号を書け。
- 1 五倍 2 五十倍
- 3 五百倍 4 五千倍
- 問三 — 線部**②**の「競争している状態」と近い意味を表すものを、次の1〜4のうちから一つ選び、その番号を書け。
- 1 凌しのぎを削る 2 牛耳ぎやうしを取る
- 3 覇権を握る 4 頭角を現す
- 問四 **イ** に入る語句として、適当なものを【新聞記事の一部】の中からそのまま抜き出して書け。
- 問五 — 線部**③**の「速」を楷書で書いた場合の総画数と、次の1〜4の行書の漢字を楷書で書いた場合の総画数が同じものを一つ選び、その番号を書け。
- 1 級 2 凍
- 3 偽 4 婆

次は、太郎さんが【新聞記事の一部】を見て、祖父と話をしている場面である。これらを読んで後の各問に答えよ。

11 次の文章を読んで後の各問に答えよ。

素晴らしき「ごほうび」のある実験

子どもにやる気を出させたいとき、部下に自発的に頑張ってもらいたいとき、自身を鼓舞したいとき等々、自分も含めて誰かのモチベーションを上げたい、という場面には頻繁に遭遇します。

多くの人はそんなとき、目に見える報酬を用意して、モチベーションアップにつなげようとするのではないのでしょうか？

たとえば、子どもには「成績が上がれば欲しいものを買ってあげよう」と伝えてみたり、部下には昇給や昇進を約束したり、自分自身にも「自分への「ごほうび」を期して何ごとかを頑張ろう」としたりする、などです。

しかし、この方法は本当に良い方法と言えるのでしょうか？

この問題について、実験的に分析した人たちがいます。スタンフォード大学の心理学者レッパーの研究グループです。

① 実験は、子どもたちに絵を好きになってもらうにはどうしたらよいか、というテーマのもとに立案されました。子どもたちをふたつのグループに分け、片方のグループには「良く描けた絵には素晴らしい金メダルが与えられる」ということを前もって知らせておきます。もう一方のグループには、メダルが与えられるという話は一切しないでおきます。

この操作のしばらくあとに、子どもたちのグループそれぞれに、実際にクレヨンと紙が渡されます。そして、子どもたちがどれだけ絵に取り組んでいたか、取り組みだ時間の総計と課題に傾ける熱心さを観察します。

すると、メダルを与えると伝えた子どもたちのグループは、メダルのことを何も知らなかった子どもたちよりも、ずっと課題に取り組む時間が少なかったのです。あたかも②報酬を与えることそのものが、子どもたちを絵から遠ざけることになってしまったかのような結果でした。

絵を好きになってもらうために、良かれと思ってごほうびを約束したことが、かえって逆効果になってしまったのです。グループを変えて何度実験してもこの結果は変わらず、データには再現性がありました。

なぜ、このような現象が生じてしまったのでしょうか？ この実験を行った学者たちは次のように述べています。

子どもは、「大人が子どもに『ごほうび』の話をするときには、必ず『嫌なこと』をさせるときだ」というスキーマ(構造)をそれまでの経験の中から学習

してきており、報酬を与えられた子どもは「大人が『ごほうび』の話をしてきたということは『絵を描くこと』」「嫌なこと」なんだ」と、報酬そのものの存在がタスクを嫌なこととして認知させてしまう要因になると指摘したのです。

ブラック企業の「やりがい搾取」

これは、子どもに限った話ではありません。別の研究者による^④実験では、大人の被験者を対象に、公園でのごみ拾いという課題に楽しさをどのくらい感じたか、という心理的な尺度が測定されています。

「目的は公園の美化推進を効率的に行うにはどうすればよいかの調査です」と被験者には伝え、絵を描かせる実験と同様に、この実験でも被験者を2グループに分け、片方のグループには報酬として多めの金額を提示しました。もう一方のグループにはごくわずかな報酬額を提示しました。そして作業終了後には全員に、ごみ拾いがどのくらい楽しかったかを10点満点で採点してもらいました。

すると、謝礼として多めの金額を提示されたグループでは、楽しさの度合いの平均値は10点満点中2点となったのに対し、ごくわずかな報酬額を提示されたグループでは、平均値が8・5点だったのです。

つまり、何かをさせたいと考えて報酬を高くすると、かえってそのことが楽しさや課題へのモチベーションを奪ってしまうということが明らかになったのです。

公園のごみ拾いで高い報酬を提示された人たちは、ごほうびをもらえると言われた子どもたちと同じように「高い報酬をもらえるからには、この仕事はきつい、嫌な仕事に違いない」と考え、楽しさが激減してしまったのです。

逆に、ごくわずかな報酬を提示された人たちには認知的不協和が生じ、「わずかな金額でも自分が一生懸命になっている」ということは、この課題は楽しい課題に違いない」と自分で自分に言い聞かせるようになったと考えられます。

類似の実験は課題を変えて何度も再現性が確認されていますが、報酬額や仕事の内容によらず、低い報酬を約束された人は高い報酬の人よりも常に頑張ってしまう、課題の成績も良く、しかも圧倒的に楽しいと感じているという傾向が見られます。

この心理が、^④ブラック企業に利用されているのかもしれないかもしれません。酷使されても辞めないケースの中には、低い報酬だからという要因も考えられます。

(中野信子『空気を読む脳』による。一部改変)

問一 次の表は本文中の——線部①の「実験」と③の「実験」をまとめたものである。それぞれに入る最も適切な語句を **A**、**B** それぞれ七字でそのまま抜き出して書け。

実験内容	報酬	結果
絵に取り組み課題	金メダル	課題への A が下がってしまう。
公園でのごみ拾い	多めの報酬	B が下がってしまう。

問二 本文中の——線部②の「報酬を与えよう」とあるが、その原因を説明した次の文中の に入る内容を五十字以上、六十字以内でまとめて書け。

子どもは、 から。

- 問三 本文中の——線部④の「ブラック企業」について説明した文として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選び、その番号を書け。
- 1 古い価値観に基づいて、年功序列や男女の不平等を見直そうとしない企業。
 - 2 成果に応じた高額な報酬を支払うことで、企業内の競争意識を煽る企業。
 - 3 労働量に対する一般的な報酬よりも、低い額の報酬で働かせている企業。
 - 4 高額な金銭による報酬のみで、心理的な面を一切考慮していない企業。

三

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

【ここまでのあらすじ】

芳賀高校三年「佐々木 潤^け」は、文芸部の「佐藤」から俳句甲子園へ出場するため、文芸部俳句部会に入って欲しいと頼まれる、これはその後続く場面である。

あれ以来、佐藤は潤にちょこちょここと接触してくるようになった。それをはぐらかしているうちに、俳句甲子園全国大会出場校、全三十六校が出そろった。

東京からは三校。一校は東京会場で優勝した至光学園。佐藤によると、注目の精鋭らしい。それから投句審査で出場を決めた藤ヶ丘女子高校。私立の進学校で、これが初出場というがきつと優秀なんだろう。すごく偏差値が高かったはずだから。そして、東京にありながら宇都宮会場にエントリーするという奇策で勝ち上がった芳賀高校。

それまでまったく日の当たらなかつた文芸部が全国大会に行くということは、校内でもそこそこ話題になった。こういうアピールが好きな学校側は、インターハイ出場を決めた水泳部や卓球部と合わせ、校舎の正面に垂れ幕を出すはしゃぎっぷりだ。

①「いろいろ言われてるけどさ、勝ったもんが正義よ」

佐藤はさらりと言った。「なあ、佐々木。決心ついた？」

潤は佐藤の熱意をもてあましてしまう。

「なあ、佐藤、お前の熱には根負けするけどさ、お前がいれば大丈夫だよ。正々堂々、松山で戦って来いよ」

「おれはお前と行きたいんだよ、佐々木」

「どうしてそんなにおれに肩入れするんだよ。見逃してくれよ」

逃げるように校門を出る潤に、佐藤はまた呼びかける。

「全国大会のオーダー表提出まで、まだ時間がある。おれ、あきらめていないからな」

逃げ出しながらも、その疑問は潤につきまとう。どうしておれが必要なんだ？

本当に、地方大会も突破したこのタイミングで、どうして佐藤が潤を引っ張り込みたいのかわからない。

—— そりゃあ、高校生の青春そのものだけども、八月の全国大会ってのは。

そこで、潤は【 X 】。

もしかしたら……。

②「おい、佐藤。白状しろ」

翌日。澗は校舎の屋上に佐藤を呼び出した。

「何だ、佐々木。おれに告白？」

「ちやかす佐藤にかまわず、澗は冷静に告げた。

「俳句甲子園の大会日程を確かめたよ。八月の第四週の土曜と日曜だったな」

「おお、そうだ。佐々木、いよいよその気になったか。まだ出場選手の提出締め切りには間に合うぞ……」

【Y】佐藤を、澗はささげさる。

「ただし、実際には試合前日の金曜日から松山入りしている必要がある。顔合わせや、対戦相手を決める抽選や、色々あるんだな。それで……」
「いったん息を継いでから、一語一語、はっきりと言葉を吐き出す。

「その金曜日。インターハイとかぶるよな」

祝インターハイ出場！

まだ正面玄関に下げられている垂れ幕の文字は、毎朝いやでも目に入る。

「今年の文芸部員についても調べさせてもらった。水泳部と兼部が一人いるな。一年生。すごく有望な飛び込み選手だそう。うちの校長が、学校のイメージアップに関して執着が強いのは、おれでも知ってるよ。俳句甲子園とインターハイ、どっちのほうがアピール度が強いかな。おれが校長でもインターハイに行けって言うな。いや、俳句の方はそいつじゃなくてもほかに誰か人数合わせの人間さえ引つ張ってくりやすむだろう、誰でもいいからいないのか？そんなことを言われたのかな、佐藤文芸部長？」俳句甲子園のための五人なんて、その程度にしか考えてもらえないだろう。

③「……それが何だ？佐々木」

追い詰めたつもりだったのに、佐藤の冷静な返事に、澗は調子が狂う。

「たしかに多田—— お前の言ってる一年生だが—— は、水泳部所属でもあるよ。最初から兼部でもいいから入部してくれっておれが説得した。それでようやく五人集められたんだ。で、インターハイの方を優先したいっていうのも多田が自分で決めた。かけてるエネルギーも時間も、水泳に關しての方が段違いに大きいからな。でも多田はちゃんと俳句詠んできたよ。馬鹿っぽい句もあるが、いい句も作るぜ。高い飛び込み台の上でなきや見られない景色、飛び込んだ瞬間の水の硬さ。痛さ。奴にしか作れない。そういう奴がいちやいけなないか？」

「……いけないとは言っていない、でも……」

勢いをそがれた澗の言葉は、佐藤にさえぎられた。

「奇策じゃないんだよ」

「え？」

「東京大会を避けて、宇都宮に出場したこと。勝つために、強いチームがいなくてエントリー数も少ない会場を狙ったわけじゃない。あの日しか、チーム全員がそろう日がなかったんだ。知ってる？うちのプール、深さが足りないから飛び込みの練習なんて危険でできないんだよ。だから多田は、平日は筋トレや体育館でのランポリン練習に励んでる。で、日曜日だけ特別に、ある大学のプールを使わせてもらえるんだ。個人的についているコーチのコネのおかげで。ほかの日はその付属高校水泳部の練習があるから、多田が割り込むわけにはいかないんだってさ。おれたちが日曜日に羽田に行けなかったのは、そういうわけだ。それに大体、勝てるとも思っていなかった、正直なところ。だから全国大会の日程のことなんて、誰一人、考えていなかった」

澗は言葉を失う。

高校生といっても、互いにさまざまな事情を抱えているのだ。

そう自分でうそぶいていたくせに、他人の事情なんか、まったく想像してみようとしなかった。

(森谷明子『春や春』による。一部改変)

(注) 投句…俳句を投稿すること。

松山…愛媛県松山市。俳句甲子園が開催される。

肩入れ…ひいきすること。

うそぶいて…偉そうに大きなことを言う。

問一 【X】、【Y】に入る最も適当な語句を、次の1～4のうちから一つ選び、その番号を書け。

【X】 1 足を洗った

2 足を運んだ

3 足を止めた

4 足を延ばした

【Y】 1 顔をほころばせる

2 顔をあわせる

3 顔をしかめる

4 顔をくもらせる

問二 本文中の——線部①の「いろいろ言われてるけどさ」とあるが、その内容を主語を明らかにして四十五字以内で書け。

問三 本文中の——線部②の「おい、佐藤。白状しろ」について、福岡さんと山口さんはこの時の澗の心情について次のように話し合った。

福岡さん

澗は佐藤の熱意に押されていたけど、**1** という疑問があったんだね。

山口さん

うん。そこでその疑問を解決するために色々調べてみると**2** が**3** から自分に声をかけたと思ったんだね。

福岡さん

そこで、澗は「白状しろ」というややきつい言葉で佐藤に聞いただけだしているんだね。

- (1) 1 に入る語句を本文中から四十五字以内で抜き出しその始めと終わりを五字ずつ答えよ。
- (2) 2 に入る語句を十字以内で考えて書け。
- (3) 3 に入る語句を十五字以内で考えて書け。

問四 本文中の——線部③の「……それが何だ？佐々木」とあるが、この時の佐藤の様子として最も適当なものを次の1～4のうちから一つ選び、その番号を書け。

- 1 澗の問い詰めるような言葉に驚き、それを隠そうとして焦っている様子。
- 2 澗に事実を知られ、チームへの参加を断られると思いい、なにもかも諦めている様子。
- 3 自分のことを一方的に責め、澗自身には何も落ち度がないような態度にいら立ちを感じている様子。
- 4 澗の発言が真実とは異なっているものであったため、落ち着いている様子。

四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

中納言、相撲・競馬を好みて学問をせられざりけるを、父の大臣、勘発し^①。たまひけれども、強ひられざりけり。その時、相撲某とかやいふ上手ありけり。敵の腹へ頭を入れて、必ずくじり転ばしければ、これにより腹くじりとぞいひける。件の相撲を召して、中納言が相撲を好むが憎きに、くじり転ばかせ。さらば、纏頭すべし。然らずは亡くなさんずるぞと仰せられにけり。則ち中納言に、「腹くじりと勝負を決すべし。負けたらむは、この事停止すべし」とのたまひければ、中納言、かしこまりておはしけり。

やがて決せられるほどに、中納言、腹くじりが好むままに身をまかせられければ、喜びてくじりけり。その後、中納言、腹くじりが四辻をとりて、前へ強く引かれたりければ、首も折れぬばかりおほえて、うつぶしに倒れにけり。大臣、興ざめたまふ。腹くじりは逐電しにけり。

(注) 勘発し……お叱りなつたけれども、強いることはできなかった。 くじり……えぐって

件……例の 纏頭すべし……褒美を与えよう 亡くなさんずるぞ……亡き者にするぞ 仰せられにけり……のたまひけり……おっしゃった
かしこまりておはしけり……謹んで聞き入れていらつしやう 四辻……まわしの背後の結び目 逐電しにけり……逃げ出してしまった。

(『古今著聞集』より)

問一 本文中の——線部①の「たまひ」の読み方を、すべて現代仮名遣いに直し、平仮名で書け。

問二 本文中には会話文で「」で括るべき部分がある。本文中より初めと終わりの五字をそれぞれそのまま抜き出して書け。

問三 次の□の中は本文を読んだAさんとBさんが会話をしている場面である。

Aさん 「某」とは「なにがし」と読んで、「○○」みたいな使い方、名前がわからない時などに使う漢字だよね。
Bさん そうだね、でも「相撲某」はその得意技から□1と呼ばれていたので、最初はあえて名前を伏せたのかもね。
Aさん 大臣は□1の力を信じて、□2と「負けたら□3」と約束していた。
Bさん そう。ところが実際には□2が勝ったので、大臣は「興ざめ」してしまったんだね。
Aさん 「興ざめ」は現代語でも使うけれど□4という意味だね。確かに「興ざめ」だね。

(1) 空欄 □1・□2に入る最も適当な語句を、本文中より□1は四字、□2は三字でそのまま抜き出して書け。

(2) 空欄 □3・□4に入る適当な語句を、現代語で考えて書け。

五

ある中学校で防災意識を高めることを目的として、防災に関する発表会を行うことになりました。左のチラシは地域の方に発表会の案内をするためのものです。より多くの方に参加してもらうためにはどちらのチラシがよいか、〈条件〉に従い作文せよ。

〈条件〉

- 1 文章は二段落構成とする。
- 2 はじめの段落には、[A]、[B]それぞれの表現の特徴について気付いたことを書くこと。
- 3 あとの段落には、どちらのチラシがよいかを選び、その理由を書くこと。
- 4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、七行以上九行以内で書くこと。ただし、文の数は問わない。

【A】

高めよう！防災意識！！

〇〇中学校 学習発表会

【発表内容】

- 1学年：防災グッズのリストアップ
- 2学年：避難時の注意
- 3学年：防災マップの作製



日時：令和〇年〇月〇日 〇時より

場所：〇〇中学校体育館



【B】

〇〇中学校 学習発表会

私たちは、「高めよう！防災意識！！」を目標として、全校で力を合わせて、さまざまな取り組みを行いました。この活動をきっかけに多くの生徒の防災意識が高まりました。

日時：令和〇年〇月〇日 〇時より

場所：〇〇中学校体育館

【発表内容】

学年	発表内容	学年
1	防災グッズのリストアップ	災害時にどんなものを準備していたら役に立ったのか体験者の方の意見を聞きました！
2	避難時の注意	いざ、避難をするというときに、助けられる人から助ける人として行動できるように避難訓練をしました！
3	防災マップの作製	実際に住んでいる町を歩き、町の危険な場所や防災施設などへ行き、マップを作りました。

地域のみなさんにも防災について考えてほしいという気持ちで発表します。ぜひ、お越しくください。

〇〇中学校